

幼児教育センターだより

平成25年 4月

大田区教育委員会 幼児教育センター 幼児教育担当 (5744)1618



この冬は厳しい寒さが続きましたが、梅の花はしっかりと咲き誇り、春を告げる桜の木々は、例年よりも少し早くまばゆい姿を見せてくれました。その姿は、新しいスタートを踏み出そうとする子ども達に「もう準備はよいですか。」と、語りかけてくるようです。

～夢に向かって歩いていくために～

子ども達の元気な笑顔にふれる時、「子ども達には、自分なりの夢や目標に向かってしっかりと歩いていけるような人になって欲しい。」と、思いをめぐらせることがあります。今号では、「子ども達が夢や目標をもてるように、そして、その夢や目標に向かって自ら取り組んでいくことができるように。」ということについて、保育園・幼稚園で心掛けている様子と重ね合わせながら考えてみました。日々の生活を通して家庭でも園でも同じような働きかけができると、子ども達は大きく輝いてくれることでしょう。

～次の活動への見通しがもてるように～

<子どもが不安を抱えないために>

生活や遊びの中で、子どもが「やり方がわからない。」「今はどうしたらよいのだろう。」「一人でできるかな。」と、不安を抱いたり、とまどっていたりする姿をみせることはないでしょうか。不安や心配を解消できずにいると、身の回りのことを進んで行ったり、遊びを十分楽しんだりすることが難しくなります。

その年齢なりに目標に向かって見通しを立て、それを実現するために進んで準備する力は、「未来に備える力」ともいえるでしょう。この「未来に備える力」は、今後の社会生活を営む上で必要とされる大切な力ですから、しっかりと育てていきたいですね。

<日々の生活や体験を大切に、「未来に備える力」を育みましょう>

安定した親子関係のもとで、幼児期から「目標に向かってイメージをふくらませながら粘り強く取り組む体験」を積み重ねることによって、自分で次の遊びや身の回りのことに備えようとする意識や行動力が芽生えてくるといわれます。保育園・幼稚園では、「子どもが見通しをもてるようにする。」というねらいを立て、子どもの活動の段階に合わせて、ときには時間をかけながら支援を行っています。

※ まずは、子どものできそうなことから！大人がその方法を丁寧に伝えてあげましょう。

大人がやり方のコツを丁寧に知らせることで、子どもは手順を理解していきます。



一つでよいので、子どもが自分でできることを繰り返し行いましょう。できなくても頑張ったことを認めてあげたいですね。



最後までやり遂げる過程の中で、子どもは達成感や成功体験を味わいます。





<見通しをもつことは、生命を守ることにもつながります>

「〇〇したら危ないかな。」というように、自分の置かれている状況について予測を立て、見通しをもって行動する力を育むことで、危険から身を守ることができるようになってきます。

これは、自分に迫ってくる危険を予測し、自分自身の体を守る、ひいては生命を守るという能力につながり、非常に重要であるといえます。



~挑戦しようとする気持ちが湧き上がるように~

<子ども自身が主体的にかかわろうとする環境を提供していきましょう>

夢に向かって力強く歩みを進めていくためには、たびたび現れる困難な場面を果敢に乗り越えようとする気持ちが必要になります。また、ときには失敗を糧にして、次の世界に挑戦しようとする意欲も求められるでしょう。そこで、まず大切にしたいのは、子ども自身が身の回りの様々なことに主体的にかかわろうとする姿勢を身に付けていくことです。無理にやらされることは身に付かないだけでなく、将来に渡っての苦手意識につながることもあり、子どもの意欲を奪ってしまうことになりかねません。



保育園・幼稚園では、幼児が楽しい活動に主体的にかかわることができるように、意図性をもって計画的に環境を提供し、ときにその楽しい体験を振り返ることで、意欲や自信を育んでいます。子どもの成長・発達に応じてタイミングよく大人が手伝いながら、子どもの挑戦しようとする気持ちを支えていきましょう。

<明日への期待感を育てていきましょう>

子どもがいろいろなことに興味・関心をもって積極的に取り組もうとするとき、次に必要な物を自分で考え、用意することもあります。「明日は〇〇して遊びたい。」というワクワク感や「やってみよう。」という期待感、憧れの感情などを大切にしながら、子どもの意欲を高めていくように働きかけていきたいですね。



~人・地域のために役立つことを喜びに感じられるように~

<仲間と共に楽しく遊び、協力しながら活動していく中で自己と社会性が育まれます>



子どもは、遊びや生活の中で、友だちと共通の目標に向かってイメージを出し合いながら、多様な見方があることを感じとったり、折り合いを付けたりすることを学んでいきます。このような体験を通して、子どもは、自分のよさを発見したり、仲間と共に活動する楽しさ・嬉しさを獲得したりしながら、社会性を身に付けていきます。

◇ 子ども達は、幼児期からのいろいろな体験を通して、「未来に備える力」を身に付けていき、やがて将来の自分の姿をイメージしながら、夢や目標に向かって辛抱強く歩いていくことでしょう。子ども達が生きる力を蓄えながら未来を切り拓いていく姿をしっかりと見守っていきたいですね。